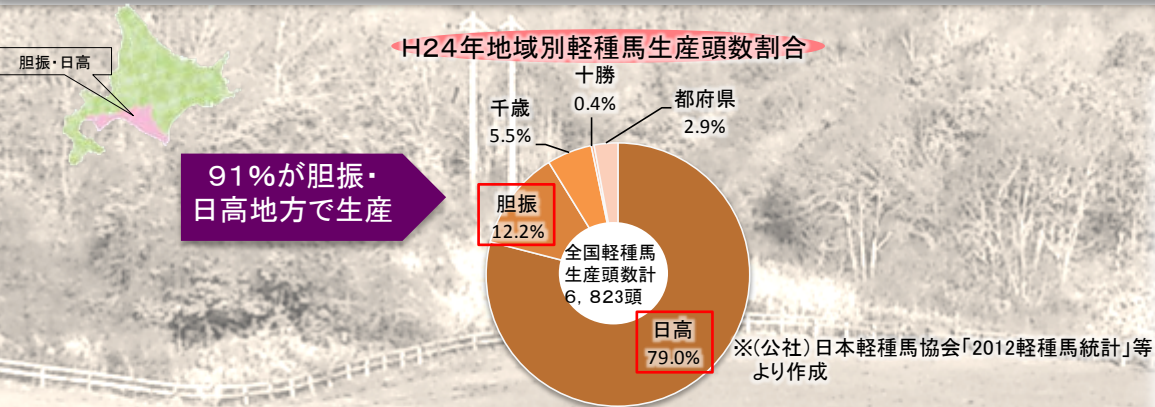


- 胆振・日高地域の気象は、北海道の中では比較的温暖で少雪であり、馬産地形成に適した地域。
- 胆振・日高地域で生産される軽種馬頭数は、全国の約91%（うち日高79%、胆振12%）。  
特に日高地域では農業に占める軽種馬産業の割合が約63%と重要な産業。
- 軽種馬生産の歴史は、明治以降、国の軍馬の資質向上の施策推進により、日高地域では1872年（明治5年）開拓使による新冠牧馬場（後の新冠御料牧場）、1907年（明治40年）内閣直属の日高種馬牧場の整備から始まる。
- 第二次世界大戦後、競馬が復興し、1948年新競馬法制定、1954年には中央競馬会が設立され、競走馬の需要が高まるとともに軽種馬農家が増加し、軽種馬生産地域として確立。
- G Iレース（JRA）では、過去2年間48戦中、胆振・日高産の競走馬は36勝で、75%の勝率。



H25年度 日高振興局主催  
「ひだか馬の絵コンテスト」大賞作品



**日高自動車道と軽種馬輸送**

日高自動車の整備により、信号交差点を回避でき、軽種馬のストレス軽減に繋がり、強い馬づくりに貢献します。

【軽種馬輸送割合】  
道内 約3割  
関東方面 約4割  
関西方面 約3割

競走馬の輸送は、可能な限り一定速度で停止時間の少ない輸送が求められる。  
(深夜走行時もドライバーは交代で運転し、仮眠のために車両を長時間停止させることはない)

車両が動いている間、馬はバランスを保とうと4つ脚を踏ん張っておとなしくしている。

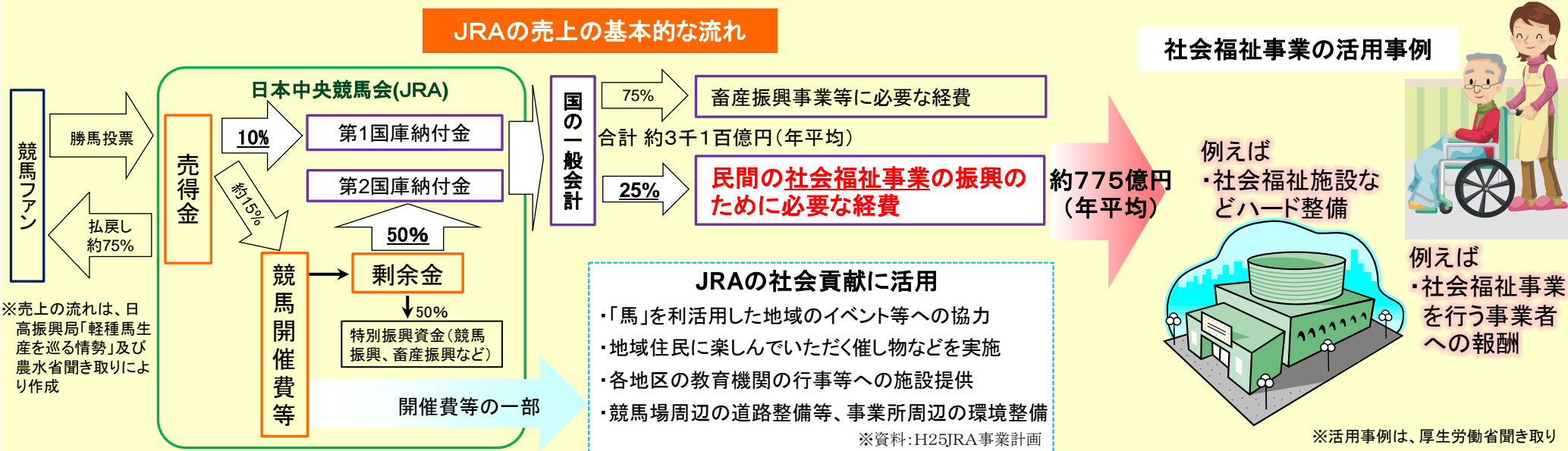
車両が停止すると、馬は動いたり暴れたりしやすくなり、怪我をする心配がある。

【走行中】      【停止中】

# 日本一の軽種馬産業 ② ～競馬売上を社会還元…こんなところに～

- ✓ 競馬は、何世代にもわたり改良を重ねられた軽種馬の競走であり、人馬一体の躍動美を楽しむスポーツとして、また賭けを通じて楽しむ娯楽として、その両面において多くの人々から親しまれている。
- ✓ JRAの売上（売得金）は、年々減少しているが、その約10%（H10～24年度までの15年間で計約4兆6千億円 [年平均3千1百億円]）が国庫に納付され、そのうち25%（約1兆1千6百億円 [年平均775億円]）が、社会福祉施設などの民間の社会福祉事業のために活用。
- ✓ そのほか、売上の一部はJRAの社会貢献として、地域振興への協力や、競馬場周辺の道路整備など環境整備にも活用。

## JRAの売上の基本的な流れ

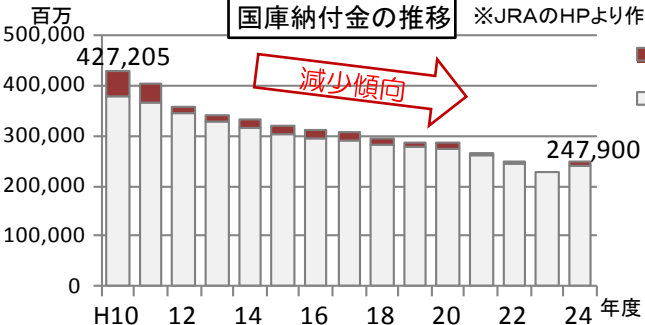


※売上の流れは、日高振興局「軽種馬生産を巡る情勢」及び農水省聞き取りにより作成

※資料：H25JRA事業計画

※活用事例は、厚生労働省聞き取り

国庫納付金の推移 ※JRAのHPより作成



- 第2国庫納付金 ※第2国庫納付金は、平均すると売得金の約0.53%程度
- 第1国庫納付金
- ・国庫納付金は年平均3千1百億円程度
- ・しかし、近年売得金の減少に伴い国庫納付金も減少傾向

## ～ホッカイドウ競馬～

- ☆ホッカイドウ競馬の発売額は、H3年度の454億円をピークに減少傾向
- ☆北海道では、強い馬づくりなどに向け「北海道競馬推進プラン（H23.3）」に基づいた取組を推進。収支は改善傾向で、H25年度の発売額は140億円となり、22年ぶりの黒字となる見込み



門別競馬場